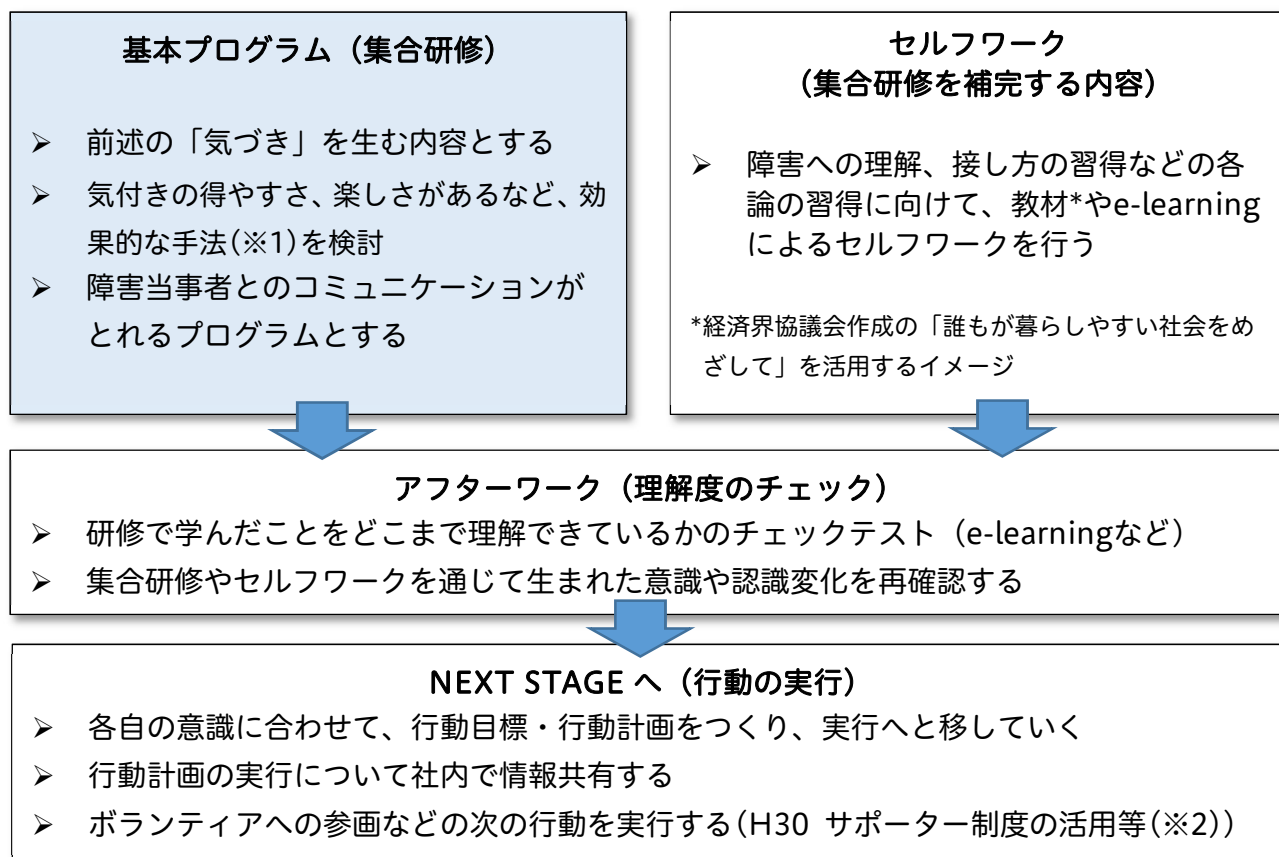


基本プログラムの構造・内容（案）

理解と気づきを促すプログラムとし、これをきっかけとして、はじめの一步を踏み出すまでの構造をつくる。



※1 効果的な手法を考えるポイント

- 気づき、楽しさがあるか
- 障害当事者とのコミュニケーションをとれるか
- 行動変容を促せるか

効果的な手法（コンテンツ）

- ①座学プログラム
- ②グループディスカッション
- ③ワークショップ

※2 H30 年度を目途に創設される障害者・高齢者等へのサポーター制度の活用等

ユニバーサルデザイン 2020 関係府省等連絡会議・心のバリアフリー分科会において、H30 年度を目途に全国で障害者・高齢者等へのサポートを行いたい人が統一のマークを着用し、そのマインドを見える化し、サポートの輪を広げていく仕組の創設を位置付けている。

プログラム構成の例

- ・効果的な手法（コンテンツ）を組合せることにより、バリエーションが多様となる。
- ・企業や受講者の実情に応じたカスタマイズが可能となる。
- ・初心者、数回目の受講者、実務者など多様な人材に対応してカスタマイズができる。（ステップアップの内容も可能）

プログラム構成案 A			
楽しさから導入され、知らぬ間に社会構造の不均衡を理解し、さらには当事者等とのディスカッション自分事としてまちなかに見るバリアを理解し、これらを体感したうえで、座学で自分が学んだことを確認し、理解を深度化できる。			
コンテンツ		獲得する視点	時間
ワークショップ	機能障害を持つ人が日々体験している「社会の中にある不均衡」をワークショップを通じて体感する。	・少数派の視点 ・社会構造の不均衡の体感的理解	50 分
グループディスカッション	まちなかで起こりうるシーンなど、事例を設定し、何に困っているか、どのように対応すべきかなどをグループでディスカッションして、多様な視点を認識する。	・障害者という他者の視点 ・障害の社会モデルの理解	30 分
座学プログラム	講師(障害当事者が望ましい)による心のバリアフリーの理念についての解説。障害当事者が実体験を織り交ぜて話すことで、実質を理解する。	・障害の社会モデルの理解 ・少数派の視点の獲得 ・多様な機能障害の基本的理解	40 分
合計時間			120 分

プログラム構成案 B			
座学から導入を図る一般的プログラム構成。心のバリアフリーの理念を理解した上で、つぎのコンテンツに進む。理念を理解した上で、ディスカッションを行うことで、受講者が自分の行動と理念のかい離に気付く（又は正しいことを確認する）ことができる。			
コンテンツ		獲得する視点	時間
座学プログラム	講師(障害当事者が望ましい)による心のバリアフリーの理念についての解説。障害当事者が実体験を織り交ぜて話すことで、実質を理解する。	・障害の社会モデルの理解 ・少数派の視点の獲得 ・多様な機能障害の基本的理解	40 分
グループディスカッション	まちなかで起こりうるシーンなど、事例を設定し、何に困っているか、どのように対応すべきかなどをグループでディスカッションして、多様な視点を認識する。	・障害者という他者の視点 ・障害の社会モデルの理解	30 分
座学プログラム	講師(障害当事者が望ましい)による機能障害の多様性についての解説。障害当事者が実体験を織り交ぜて話すことで、実質を理解する。	・障害者という他者の視点 ・障害による困りごととその基本的理解 ・障害による困りごとに対する接し方の基本	30 分
合計時間			100 分

プログラム構成案C

楽しさから導入され、障害者の視点を獲得したうえで、座学で自分が学んだことを確認し、理解を深度化できる。さらに、自分の職場での体験に結び付けて理解を進めることで、「自分事」として意識化する。

コンテンツ		獲得する視点	時間
ワークショップ	機能障害を持つ人が日々体験している「社会の中にある不均衡」をワークショップを通じて体感する。	・障害者という他者の視点 ・先入観の意識化 ・多様な生を気遣う意識の醸成	50 分
座学プログラム (短縮 Ver)	講師(障害当事者が望ましい)による心のバリアフリーの理念についての解説。障害当事者が実体験を織り交ぜて話すことで、実質を理解する。	・障害の社会モデルの理解 ・少数派の視点の獲得 ・多様な機能障害の基本的理解	30 分
座学プログラム (短縮 Ver)	講師(障害当事者が望ましい)による機能障害の多様性についての解説。障害当事者が実体験を織り交ぜて話すことで、実質を理解する。	・障害者という他者の視点 ・障害による困りごととその基本的理解 ・障害による困りごとに対する接し方の基本	20 分
グループディスカッション	自分の職場や仕事に存在するバリアを見つけ出し、何に困るのか、どのように対応すべきかななどをグループでディスカッションして、多様な視点を認識する。	・障害者という他者の視点 ・障害の社会モデルの理解	20 分
合計時間			120 分